

# とっとり Autumn 2024 Now

巻頭  
特集

歴史文化と先人の功績誇るまち

いにしえ浪漫の郷めぐり

特集

映画文化の灯、絶やささない  
共有の輪広がる、まちなか上映、活動



TOTTORI おもしろ発見手帖 情熱と知恵の孔版画家・板祐生 2

巻頭特集 歴史文化と先人の功績誇るまち  
いにしえ浪漫の郷めぐり 4

開運おかげ詣で 因幡と伯耆の神社 大神山神社 奥宮 (大山町) 14

ここにこの人 脚本家・映画監督 足立 紳 15

特集 映画文化の灯、絶やさない  
共有の輪広がる「まちなか上映、活動」 18

VIVA!トットリLIFE ハンガリー・ヨーロッパ料理屋台経営  
輝くIUターン者たち (米子市) 24

Voice・読者プレゼント・編集後記 26

□「あーとの森」「きらり匠人」「カメラアイ」「企業紹介」「鳥取のうま味」は休みます。



●表紙イラスト●

池平 徹兵  
いけひら・てっぺい

1978年福岡県生まれ。鳥根大学卒。  
東京オペラシティアートギャラリー-projectN、  
岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出演。

143号表題『秋のパレード』  
金剛山 清徳寺 (八頭町) の参道を埋め尽くす  
紅葉に、モズ、ノドグロ、蔓珠沙華などの秋の  
動植物を散りばめた。例えば病室などにおいて  
紅葉を見に行くことが出来ない人にも「秋の  
輝き」が届くように、最高の秋色を注いだ。  
キャンバス/油彩

「とっとりNOW」が毎月届く  
「ふるさと来LOVEとっとり」  
会員を募集中!

入会  
年会費  
無料



巻頭特集：国の重要文化財に指定されている  
旧美敷水源地水道施設 (鳥取市国府町)



特集：映画文化を絶やさないと「まちなか上映、活動」  
活動を続ける人たち (鳥取市)

## 情熱と知恵の孔版画家・板祐生

～ガリ版刷りで集めたコレクション～



板祐生

なんぶちよう 南部町出身の収集家  
こうはんが か いたゆうせい 板祐生 (1889～1956)  
は、大正～昭和期の郷土玩具、絵はがき、駅弁の包み紙、  
ポスターなど約4万点を収集した。その収集方法は独特。  
とにかく「譲って」と頼み込み、お礼に版画を贈るのだ。  
収集品を展示する「祐生出会いの館」副館長の中尾慶治郎さんに詳しく聞いた。



祐生が贈った私家本の数々。私家本とは友人や関係者など、狭い範囲に配布するために作った書籍



### 好奇心と手紙で広げた人脈

教員をしながら限られた資金での収集活動は、町をほとんど離れることなく行われた。興味を持ったら、どんな相手であろうと伝手をたどって、「どうか、ひとつください」と手紙を書く。敬意を表す文面と正直に思いを打ち明ける姿勢が相手に通じ、「あげたい」と心が動かされたようだ。収集物を「後世の参考にする」という私欲の無い志も共感を誘った。お金を支払う代わりに、もらった玩具などの絵を描き、仕事で使っていたガリ版刷りで多色の版画を制作、冊子にまとめて贈った。この私家本が全国の多能趣味人の間で評判となり、いつしか版画欲しさに品物を譲ろうとする者まで出るほどになっていく。

出来栄見え見事な「私家本」贈る



全国津々浦々の駅弁の包み紙



VOL.16



全国各地から集めた  
玩具やポスターの数々



ガリ版刷りとは木枠に原紙を張り、インクを塗ってローラーで押さえることで、文字や絵を印刷する手法

### 芸術家たちを魅了した版画

当時、ガリ版刷りを使う作家は珍しく、独自の技法は先駆的だった。お礼のためにと取り組むうちに磨かれていく作品は、次第に評価され、世界的な版画家・棟方志功らと同じグループに誘われ、年賀状をテーマに技を競い合うほどになっていった。

☎ 祐生出会いの館  
☎ 西伯郡南部町下中谷 1008  
☎ 0859-66-4755



文・イラスト/渡部紘巳 (わたなべ・ひろみ) 納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物が好きなおから、屋号は「スタジオづるり」。





幻想的な雰囲気漂う秋の鳥取藩主池田家墓所  
 =写真提供:鳥取藩主池田家墓所保存会  
 撮影:上田康恵(第16回写真コンクール優秀賞)



四季の移ろいとレトロな施設が魅力の旧美敷  
 水源地水道施設★写真提供:鳥取市教育委員会



歴史文化と先人の功績誇るまち

# いにしえ浪漫の郷めぐり

山があり、川があり、広大な平野があり、  
 鳥取市<sup>こくふちょう</sup>国府町はその豊かな自然を背景に、  
 古代から県東部の要所として栄えてきた。  
 まちに残る数々の遺構や史跡、  
 歴史や民俗文化をたどると、  
 そこに込められた先人の思いが  
 鮮やかに浮かび上がってくる。  
 さあゆこう、  
 秋風と共にいにしえ浪漫<sup>ろまんざと</sup>の郷めぐりへ——。

文/鳥飼 明子 写真/田中 良子



県東部最大の貯水量を誇る「殿ダム」と  
 「因幡万葉湖」=写真提供:国土交通省殿ダム管理支所



律令制と貴族の世界で頭角現す

奈良時代、因幡国庁に赴任し、多くの歌を詠んだ歌人・大伴家持のイメージ像

最後か否か、謎を呼ぶ最終歌

「新しい年の始の初春の今日降る雪のいや重げ吉事」  
 現存する日本最古の和歌集『万葉集』の最後に収められている、奈良時代の歌人・大伴家持の歌だ。758年の夏に因幡国守として赴任し、翌年正月に開いた年頭の宴で詠んだもの。この地での歌はこれ1首のみ、以降彼の歌は1つも見つかっていないという。なんとも意味深なこの歌、家持は一体どんな気持ちだったのだろう。

鳥取市国府町は「梶山古墳」「岡益の石堂」など遺跡が数多く残る、歴史文化の色濃いまち。大伴家持の生涯や『万葉集』、因幡の歴史民俗文化に関する資料を展示する「鳥取市因幡万葉歴史館」の館長・山崎博己さんは、「因幡国一の宮宇倍神社

の創建は648年で、大化の改新の3年後。さらに因幡国庁跡、国分寺跡があり、ここが因幡国の中心であったことが伺える」と説く。

『万葉集』の編さんに携わった歌人として有名な家持。父・大伴旅人もその名を知られた歌人で、同世代の山上憶良と交流があり、その影響を大きく受けた。大伴氏一族は武門の家柄で、主に天皇や宮廷を警護する任を担ってきた。自身も律令国家の高級官吏であり、20歳で天皇の身辺警護を行う内舎人を任じられると順調に昇進、28歳には越中国守を任ぜられる。若手の地方赴任先としては申し分なく、任期を終えれば中央の要職に就ける出世コースだ。とはいえ家族・友人と離れた寂しさなどがあつたのだろう、帰京までの5年間で223首の和歌を詠んだという。

10代の頃から相聞歌（※1）も数多く詠んでおり、揺れ動く恋心や当時の恋愛・結婚事情が読み取れる。和歌の実力を認められ、大阪で防人歌（※2）の収集もしている。このとき集められた防人歌は『万葉集』に収録されている。



因幡国庁跡の解説をする山崎さん。同所は東西150m、南北200mの広さで国司が政治を行った正殿跡や掘立柱跡などが残る。現在は礎石の位置を御影石で表示し、国指定史跡公園として保存されている



『万葉集』の最後を飾る家持の歌が刻まれた歌碑。1922年9月、国府町内の集落の一角に建立された

※1 相聞歌=兄弟姉妹・友人など親しい間柄で贈答されたものもあるが、多くは男女の恋愛感情が入った歌  
 ※2 防人歌=万葉集の中の防人が詠んだ歌。防人とは奈良・平安時代に辺境の防備に当たった兵士

飛鳥〜奈良時代の情景浮かぶ

万葉集は、現存する日本最古の歌集で、全20巻からなる。飛鳥〜奈良時代の約130年間にかけて、天皇や貴族、防人、農民など、さまざまな立場の人が詠んだ4500首以上の和歌が収められている。皇族の女性であった額田王、律令官人の山上憶良、百人一首でも知られる柿本人麻呂といった有名な歌人をはじめ、作者未詳の和歌も半数ほどある。

日本最古の和歌集『万葉集』

万葉集の成立には諸説あるが、大伴家持の長歌・短歌が473首入っており、全体の1割を超えていることから、彼がその編さんに深く関わったのだらうと考えられている。

730年1月、家持の父・大伴旅人が赴任先の太宰府で開いた「梅花の宴」では和歌32首が詠まれ、巻5に収録されている。その序文「初春の令月にして 気淑く風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫らす」から、現在の元号「令和」が考案された。



『万葉集』の写本。春日大社若宮（奈良県）の神官が書写したことで『春日本』と呼ばれる

そんな中、勢力争いから藤原氏への謀反が企てられる。密告により未遂に終わるも、犯人の中には家持の従兄弟もいた。自身は関わっていないが、事態を収めるためか、はたまた左遷か、40歳の時、因幡国守を任じられる。

759年の正月、因幡国は大雪であった。正月の大雪は豊年の吉兆。因幡国庁で年頭の宴を開き、冒頭の歌を詠む。「新しい年の初めにあつて、初春の今日降りしきる雪のように、良いことがたくさん重なりますように」という意味だが、争いや左遷に悔しさをにじませていたのか、それ

とも白い雪に希望を見いだしていたのか、その心中は本人のみぞ知る。

結果的にこれ以降、家持が詠んだ歌は記録に残っていない。「歌をやめたかどうかには諸説ある。個人的には、この歌で締めくくりたいと断筆したのではないかと思う。一方で、和歌好きの家持が詠んでいないはずはないと、唱える人もいる」と山崎さん。

少し気持ちモヤモヤするが、全て明白になるより、謎は謎のままがいいのかもしれない。これぞ1300年の時を超えた万葉浪漫ではないか。



## 神獣が守る歴代藩主の墓碑



池田光仲公の墓へと続くアプローチの両側にズラリと並ぶ灯籠と墓標の下に鎮座する「亀趺」



池田家墓所保存会が管理する。幹事の梅村大輔さんは、「藩主を頂点とした近世大名家の階層性がよく表れた興味深い史跡。時代ごとに違う亀趺の顔を見比べるのも面白い」と見どころを語る。

景観も美しく、春はサクラ、秋は

## 情緒醸す四季の美景が魅力

まちの喧騒を背に山へ向かう坂道を奥へ。鳥取藩主池田家墓所は深緑の森に包まれるようにひっそりと、ある。江戸時代、因幡・伯耆両国32万石を治めた池田家の初代から11代までの藩主とその夫人、御分知家当主らが静かに眠る。

1632年、わずか3歳で鳥取藩の初代藩主となった池田光仲公は、江戸幕府初代将軍・徳川家康のひ孫だ。幼年のため初期の藩政は家老中心だったが、18歳で鳥取へ初入国すると政治に心血を注ぎ、藩の地盤を

構築した名君であった。93年7月、64歳の時に逝去、鳥取藩は廟所（※3）としてこの地を選び、埋葬した。

歴代藩主の墓碑は4.6メートルと高く、三段重ねの台石の上に「亀趺」という神獣をかたどった台石を据え、円頭扁平な墓標を立てた「亀趺円頭」という独特な形式。墓標前面には法号（※4）、裏面には事績（※5）が刻印されている。各墓所へと続く道沿いには、家臣らが供えた260基以上の灯籠がずらり。厳かな雰囲気と同時に、往時の権力を今に伝えている。

紅葉と四季折々で異なる表情に魅せられる。灯籠に火を灯すことで幻想的な雰囲気が出る「燈籠会」は、秋恒例の人気のイベント。また「写真コンクール」も実施し、入賞作品は巡回展示も行っている。

「広大な史跡の監視、清掃や除草、墓碑・灯籠などの修繕と、維持管理は大変だが守り続け、人々に親しまれる場所になりたい」と梅村さん。

大切に守り継がれている墓所をたたくように、ふと一匹の蝶がヒラリと舞い降り、そしてすぐに森へと飛んでいった。鳥取の自然を好んでいたという光仲公、きっとこの場所も気に入っていることだろう。

- ※3 廟所=先祖や貴人の霊のまつてある場所
- ※4 法号=仏門に入った者に授けられる名前
- ※5 事績=成し遂げた事情や功績

公益財団法人史跡  
鳥取藩主池田家墓所保存会  
鳥取市国府町奥谷、宮下  
0857-26-7524  
8時30分～18時  
(10～3月は8時30分～17時)  
無料



Web

## 鳥取藩主池田家墓所

## よみがえる万葉の世界 家持が生きた時代を体感

### 鳥取市因幡万葉歴史館

武門の名家・大伴氏の族長で、歌人として多くの歌を残した大伴家持の生涯にスポットを当て、『万葉集』の和歌の数々、それらを詠んだ歌人たち、当時の暮らしなど、万葉の世界を身近に感じられる。鳥取市因幡万葉歴史館は、1994年10月にオープンし、今年30周年を迎える。

ここでは家持が国守として因幡国に赴任していた際の暮らしぶりを、再現映像などで体感できる。大陸から強い影響を受けた当時の服飾や食文化、楽器などを展示。また、国府町に残る国史跡「梶山古墳」、「岡益の石堂」などの遺跡が原寸大で再現されているのも面白い。因幡国庁や国分寺の礎石、鷗尾（※3）の模型や複製もあり、古代因幡国へ誘われる。

見どころは屋外にも。「万葉と神話の庭」は、『万葉集』の中に出てくる約50種類の植物、国府町に伝わる昔話にちなむ

万葉の世界にタイムスリップできるような展示の数々



※3 鷗尾=宮殿、仏殿など瓦ぶぎの大棟の両端に取りつける魚の尾形の飾り物



「万葉集」にちなむ多様な植物と彫刻が配された「万葉と神話の庭」

鳥や犬などの彫刻が配された回遊式庭園だ。施設のシンボルタワー「時の塔」は、高さ30メートルの展望室から国府平野や因幡三山（面影山、今木山、甑山）、はるかに扇ノ山を一望でき、爽やかな気分が味わえる。

このほか円形・屋根付きの多目的オープンスペース「伝承館」は、「万葉集朗唱の会」「因幡の傘踊りの祭典」「雅楽・舞楽の宴」など、地域に伝わる古今の民俗文化イベントが催される拠点となっている。

さらに毎年旧正月には「万葉茶会」を催し、恒例行事として来館者に喜ばれている。

所 鳥取市国府町町屋726 電話 0857-26-1780  
開館 9:00～17:00（最終入館16:30）  
休 月曜日（祝日の場合は開館・翌日休館）、  
祝日の翌平日、12月29日～1月3日  
料 【常設展】一般：300円 高校生以下・65歳以上：無料  
【特別展】一般：特別料金 高校生以下：無料



Web

## 雨乞から生まれた伝統的な傘の舞

### 因幡の傘踊り

小鈴の付いた竹組みの傘を操り、シャンシャンという音色を響かせながら一斉に踊る「鳥取しゃんしゃん祭」は、鳥取市の夏の風物詩。実はその原形が「因幡の傘踊り」であり、国府町は発祥地の一つだ。

剣舞の型を取り入れており、そろいの浴衣に白たすき、白鉢巻、手甲脚半という凛々しい装束姿で、長柄の傘を刀に見立て、斬り込むように振り回す様は実に勇壮だ。「鶴」と「亀」の2人1組で、高低の変化を付けながら踊るのも特徴。唄の種類は「三番叟」「因幡大津絵」「貝殻節」などがあり、唄い手が伴奏なしで唄いあげる。

江戸後期、大干ばつに困り果てた農民が冠笠を振り回して踊った雨乞祈願が起源。全国でも珍しい伝統芸能である

ことから、1974年10月、鳥取県無形民俗文化財に指定された。毎年開催される「因幡の傘踊りの祭典」では、各団体がその伝統の技を披露する。



凛々しく勇壮な舞の伝統芸能「因幡の傘踊り」。長い傘の柄を振り回す動きは激しく迫力がある  
=写真提供：国府町因幡の傘踊り保存会

# 旧美歎水源地水道施設

1918年の台風で決壊した堰堤(写真左)  
 22年には「美歎の大幕府」と呼ばれる堅固なダムが完成(写真中)  
 29年、濾過池を1号増設し5号になった(写真右)  
 =写真提供:鳥取市教育委員会



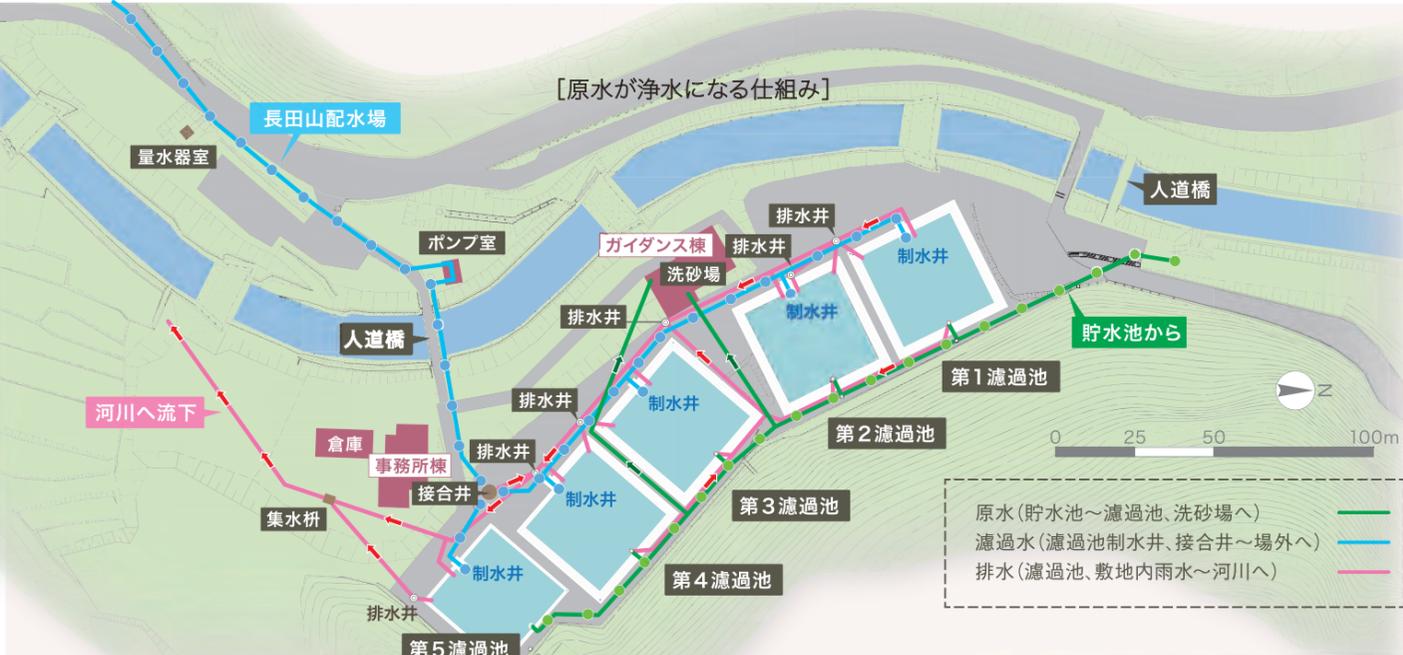
## 山陰最古、紆余曲折の歴史あり

生活用水に川や池の水を使うことが普通だった時代、衛生環境が悪く、鳥取市でも伝染病がまん延していた。近代化の流れから、安心安全な水の供給を願う声が次第に大きくなる。そこで鳥取市は1915年、国府町美歎を水源地として、山陰初となる「美歎水源地水道施設」を建設した。設計・建設を手がけたのは、日本人として初めて上下水道を設計した三田善太郎。外国人技師の設計が主流の中、「純国産」での建設はまだ珍しいことだったという。施設のひとつ、美歎ダムは台形状の土堰堤、貯水量約52万立方メートル、念願の浄水が約3万人の市民へ供給されるようになった。

ところが、わずか3年後、台風による豪雨でダムが決壊。美歎集落を襲い、死者8人を出す大災害に。施設も一部流出、大量の泥が堆積するなどして使用不能に陥った。これを教訓に市は、より堅固なダムを造るため、日本初のコンクリートダムを建設した佐野藤次郎に復旧を依頼。約4年後の22年6月、全ての復旧工事と粗石張りの重力式コンクリートダムが完成し、水の供給が再開された。このダムは上部越流式で、貯水池が満水になると高さ21.2メートル、幅37.6メートルのダム上部から水が流れ出る仕組み。「美歎の大瀑布」と呼ばれ、その迫力に多くの人が集まる名所になったという。



「協力しながら価値ある財産を守っていきたい」と話す鳥取市文化財課の岡垣さんと美歎水源地保存会会長の澤田さん(写真左から)



## システム現存、国重文に指定

時代が進み、市街地や人口が拡大すると、鳥取市は新たな水源地を設けて対応。それに伴って美歎水源地は78年に給水休止となり、約60年の長きにわたるその役目を終えた。本来ならばダムは解体され、この場所は皆から忘れ去られていただろう。しかし、長年共に苦労した仕事場であり、レトロな洋風建築、山里の美しい風景を残す施設は地元の宝だと、保全・継承の運動が起る。美歎自治会を中心とした熱心な活動により、解体を免れたダムは、「砂防ダム」として新しい役割を担うことになった。さらに2007年6月には、施設全体が国の重要文化財に指定された。

鳥取市教育委員会文化財課の岡垣頼和さんは、「旧美歎水源地は川から水を取り込む量水堰、ダム、5つの濾過池、管理設備など、大正時代の一連の水道システムが当時のまま、ほぼ全て残っているのが歴史的価値が高く素晴らしいところ」と誇らしげに語る。指定を受けたことで保存整備工事が進み、歴史や仕組みを説明するガイダンス棟も完成。18年に文化施設として一般公開をスタートした。集落住民により結成された「美歎水源地保存会」が維持管理・見学案内などを行っている。



### 旧美歎水源地水道施設(ガイダンス棟)

〒鳥取市教育委員会文化財課  
 鳥取市国府町美歎  
 電話 0857-30-8422  
 時間 9時～17時 入場無料  
 期間 12月1日～3月31日



### 施設ガイド

美歎水源地保存会  
 鳥取市国府町美歎  
 電話 090-1682-1842(澤田さん)  
 要相談。希望に応じ案内可能  
 料 2,000円/団体



解説や模型の展示などで旧美歎水源地水道施設の歴史や仕組みがよくわかるガイダンス棟



ロックフィルダムは自然にある土や大小さまざまな岩石を組み合わせて積み上げたもの。コア、フィルター、ロックと呼ばれる3層で強度を保っている☆



## 自然生かした周辺整備でにぎわいも

多くの目的で使用されている広々とした芝生広場(☆)と殿ダム交流館



○殿ダム交流館  
○鳥取市国府町殿46  
☎0857-77-4607  
時 8時30分～17時 料 無料  
休 月曜(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日



Facebook

☆写真提供：国土交通省殿ダム管理支所

管理する国土交通省の殿ダム管理支所長・青木理恵さんは、「殿ダムの洪水調節は自然調節方式。ダム湖である因幡万葉湖の水が一定の水位を超えると、洪水吐きから自然に流れ出る。ゲートが不要でコストも抑えられる」と利点を説明。

さらに、放流水の水路にも秘密が。「階段状にすることで水の勢いが弱まり、安全な放流が可能。この技術の採用は国内初」だという。

支所内には、構造を紹介するコーナーが設置されているほか、毎年8月にはダムの内部探検や湖面パトロールなどの体験も実施され、子どもたちにも人気だ。

ダム完成までの道のりは長く険しかった。集落の家や田畑が広範囲で

消失するため反対運動が起こり、建設事業は難航を極め、20年以上も話し合いが続くことになった。構想から実に約50年の歳月を経て、ようやく2012年3月に竣工。今の恩恵は、多くの苦難と犠牲の上にあることを忘れてはならない。

故郷を愛する人々の思いを大事に、同時に周辺の環境も整備された。交流拠点「殿ダム交流館」、広い芝生広場、ダム湖周辺をめぐるウォーキングコースと、自然を満喫できるスポットが満載だ。遠足やスポーツ活動、各種イベントなどに活用されている。館長の山下修さんは「昨年度は約3万6千人が訪れてくれた。このにぎわいを未来につなげたい」と目を輝かせている。

## 殿ダム

### 美しさ誇り、利水・治水に活躍

県東部最大の水がめ「殿ダム」は、自然の岩石を積み上げた「ロックフィルダム」だ。堤高75m、堤頂長294m、見上げると圧巻の大きさで「平成のピラミッド」との異名を持つほどの美しさを誇り、優秀な機能も備える。

千代川の支流である袋川に建設されており、総貯水量1240万立方mで、これは東京ドーム約10個分にもなる。工業用水・水道用水の供給、水力発電はもちろん、洪水調節による被害の軽減を行い、大きな役割を果たしている。



国内初の技術を採用した階段状の水路。1段は3m×8m。水の勢いを緩和できるため安全な放流が可能だ

○国土交通省鳥取河川国道事務所 殿ダム管理支所  
○鳥取市国府町殿206-4  
☎0857-58-0581  
時 資料館：8時30分～17時15分  
料 無料  
休 土曜・日曜・祝、12月29日～1月3日  
※ダム見学は事前予約が必要。  
見学受付は平日の8時30分～17時15分



Web

初夏には施設の横を流れる美歎川にホタルが舞う  
写真提供：美歎水源保存会



## 癒やしの場所へ保存会が尽力

保存会の会長である澤田勝さんは、会の前身から美歎水源地の保存、文化財指定に尽力してきた一人だ。メンバーと共に来場者の対応や周辺の清掃・草刈り、イベント開催、広報活動などに精を出す。

「この濾過池は砂利・砂を順番に敷き詰め、水をゆっくりと濾すことで浄水する『緩速濾過』。濾過の速度が低下してきたら、表層の砂をかき取って洗砂場で洗浄する。全て人力なのでかなりの重労働だったと聞く」と詳しく教えてくれた。澤田さんの父は施設の元管理責任者であり、自身も子どもの

頃からよく訪れていただけに、臨場感のあるガイドが面白い。

「昔ながらの自然も見どころで、春は川沿いのサクラが咲き誇り、夏はホタルが舞い、秋はイチョウが黄金に輝く」。山野草を愛でながらダムまで散策することもでき、見学を含め年間1万5千人余りの人が訪れる憩いのスポットとなっている。

「いつ訪れても心がホッと安らぐような場所にしたい」と澤田さん。過去・現在・未来をつなぎ、人々の心にこの地への愛着を育てようとしている。

☆写真提供：鳥取市教育員会

ここにこの

Human  
Life



# 足立

脚本家・映画監督

Adachi  
Shin

# 紳



「子どもの頃からみんなに笑ってもらうことが好きでした」  
昨年から今春にかけて、大きな反響を集めた  
NHK連続テレビ小説『ブギウギ』。  
この昭和の大スター・笠置シズ子の半生を描いた  
脚本を手掛けたのは、倉吉市出身の足立紳さんだ。  
しかし、映画好きの少年が夢をかなえるまでの  
道のりは果てしなく長かった。

文／船越 玲子 写真／高野 宏治

葺き替え工事が進み姿を現した大神山神社奥宮の拝殿。  
銅板製の鬼板（神社の社殿に使われる装飾のひとつ）も  
新しくなった＝撮影：萱野雄一



## こけら葺屋根 30年ぶりに葺き替え

開運  
おかげ  
詣で

因幡と伯耆の神社

### 大神山神社 奥宮 だいせんちやう 大山町

神社には日本古来の建築様式が残る。特に屋根に色濃く残り、しかも、生きたまま受け継がれている。例えば、伊勢神宮の茅葺屋根のルーツは、縄文時代に遡る。それは奈良、平安時代にかけて木の板を使う「こけら（※1）葺き」、さらに木の皮による「杉皮葺」「檜皮葺」へと発展。どれも日本古来の技術だが、現代の建築物にはまず使われない。  
大神山神社奥宮。日本最大級の「こけら葺」が約30年ぶりに葺き替えられた。使われた素材は樹齢200年以上、直径6センチほどの杉を厚さ3ミリに割いたこけら約32万枚。枚数も日本最大級だ。これを職人が竹製のくぎを使い、一枚一枚貼っていく。魅力はなんととっても鋭いエッジと、滑らかなカーブ。往時を思わせる美しさ



緻密な計算で形成された鋭いエッジと滑らかなカーブ



30年経過したこけら（奥）と新しいこけら



職人たちが竹製のくぎを使って一枚一枚、丁寧にこけらを貼っていく作業は見ごたえがある

がよみがえった。  
また、社殿内部の天井画23枚、壁面の補修と塗り直しも行われ、この秋に遷座祭（※2）が執り行われる。かつて、3千石の寺領を誇った神仏習合の名刹だけあり、その装飾は絢爛豪華を極める。幣殿（※3）の柱と梁は、漆と銀箔を使い、艶やかに輝く「白檀塗」。この塗りが建築に使われる例は数少なく、随所に見どころがあふれている。

文・写真／角田 治

産業発展、五穀豊穡  
牛馬畜産、医薬療法

ご利益



つのだ・おさむ グラフィックデザイナー。神仏探訪家。『山陰の神々 古社を訪ねて』（山陰の神々刊行会）など、神社にまつわる書籍の取材・執筆・撮影。

社情報

社号：大神山神社 奥宮 鳥取県西伯郡大山町大山  
☎0859-27-2345（大神山神社 本社）

## 諦めず書き続け、夢かなえる

自然体な語り口に、柔和で福々しい笑み。ふと見ると立派な福耳！自身が脚本に描いた福来（ふくらい）子（ブギウギの主人公）のごとく、福も仕事も舞い込んで来そうに見える。

ところが、脚本家としては遅咲きだったという。「実は40歳過ぎまでアルバイト生活でした」

倉吉市から18歳で上京して映像の世界を志すも、すぐに芽は出ず、脚本を書く傍らラーメン屋や100円コンビニなどで働いて暮らしていた。手掛けたヒット作、安藤サクラさん主演の映画『百円の恋』（2014年）では、そんな日々がモチーフになっている。

### 初の成功体験は学芸会

小学校では野球部、中学校は陸上部、高校ではソフトボール部でインターハイに出場した経験もあるほどのスポーツ少年だった。同時に、幼いころから両親の影響で映画にも魅せられていたという。なかでも夢中になったのが、血しぶき飛び散るスプラッター系ホラー映画だ。思い出深いのが小学

校3年のとき、倉吉市内にあった映画館「富士館」で見た『食人族』（1980年/伊）。猟奇的すぎる表現から上映禁止になった国もある伝説的な作品だが、どうしても見たくて父親に連れて行ってもらった。

学校生活でも将来を感じさせる片鱗を見せていく。

「クラスの学芸会で、ザ・ドリフターズやラジオの深夜番組をまねてコントを披露するとみんなにすごく受けた。先生も『お前たちよく書いたな』って。ほめられたことがうれしくて、これが最初の成功体験かな。でも実は丸パクリだったんですけどね（苦笑）」卒業文集に書いた将来の夢は「映画監督」。映画の仕事といえば、監督と俳優しか思いつかなかったという。



これまで手掛けたTVドラマや映画の台本や小説の数々



**妻の一言が原動力に**  
高校卒業後に上京。今村昌平監督が設立した日本映画学校（現日本映画大学）で頭角を現し、卒業後は「セーラー服と機関銃」「台風クラブ」などで知られる相米慎二監督に師事した。一見、順風満帆なスタートのようだが、そう甘い世界ではなかったのは前述の通り。脚本を書いても書いても、なかなか仕事に結びつかなかった。長きに渡るアルバイト時代を支えた妻・息子さんには今も頭が上がりません。

「妻がフルタイムの仕事をしていたので、僕が炊事洗濯、子どもの保育園の送り迎えなどをしていました」

これまでも振り返って笑い合う足立さん夫妻。妻の息子さんは、個人事務所（株式会社TAMAKAN）の代表を務める

□株式会社TAMAKAN



Web



## 長かった表舞台までの道のり

あだち・しん

1972年、倉吉市生まれ。95年、日本映画学校の演出コース修了後、相米慎二監督に師事。助監督・演劇活動を経て、2004年に『MASK DE 41』（村本天志監督）で脚本家デビュー。主な映画作品は『百円の恋』（2014年）、『喜劇 愛妻物語』（2020年）、『雑魚どもよ、大志を抱け!』（2023年）など。23年、小説『春よ来い、マジで来い』（キネマ旬報社）を上梓した。

そんな中いつしか「脚本家としてはダメだし、いつそ『スーパードラマ』を目指そう」と決意する。ところがある日、「私は主夫と結婚した覚えはない。結果を出せ!」と妻にピシヤリと言われ、「ほんとに怖くて:『はい』と言うしかなかった」とはいえ、手探りは続く。とにかくコツコツと書き溜めていた原稿をシナリオコンクールに送って

みることにした。そしてついに2012年、『百円の恋』が松田優作賞のグランプリを受賞。何とか首の皮一枚つながったという思いだった。

「それでも、次は脚本を売り込む営業活動に必死で:。ようやく脚本だけで食べられるようになったのは、映画化され、日本アカデミー賞最優秀脚本賞（2016年）をいただいたから。42歳の頃ですね」

### 赤裸々に描く自伝的映画

その後、手掛けた映画『喜劇 愛妻物語』（2020年）は息子さんの日々の生活を思わせる半自伝的作品。売れない脚本家と夫に愛想をつかす妻との赤裸々なやり取りが、クスリとするやら、泣けるやら、最後まで目が離せない。

「地元を舞台にした原稿もいくつか温めているんです。これまで撮ったことのないホラーも、いつか鳥取で撮りたいですね」ハートフルな作品が多いなか、ホラーではどう描かれるか。その日が待ち遠しい。



『雑魚どもよ、大志を抱け!』Blu-ray & DVD発売中 ©2022『雑魚どもよ、大志を抱け!』製作委員会



『喜劇 愛妻物語』Blu-ray & DVD発売中 ©2020『喜劇 愛妻物語』製作委員会



『百円の恋』Blu-ray & DVD発売中 ©2014 東映ビデオ

「ひよっこり」の出会いで、すっかり仲良くなり、目指す方向性が共鳴しました。(左からクララさんとクロダさん)



「ありがとう」の声励みに

7年で20本上映  
4000人を動員



上映会で配布する手作りのポストカードやしおりなど。キュートなデザインが好評だ



クララとクロダの  
ひよっこりシネマ  
(鳥取市)



活動のきっかけとなった『ふたりの桃源郷』ほか、これまでの上映作品のチラシ

☎クララとクロダのひよっこりシネマ  
☎070-3860-2498(クロダ)



Instagram

※次回は12月8日(日)『桜色の風が咲く』を上映。  
鳥取市文化ホールと共催。

常設映画館が3館にまで減少した鳥取県。

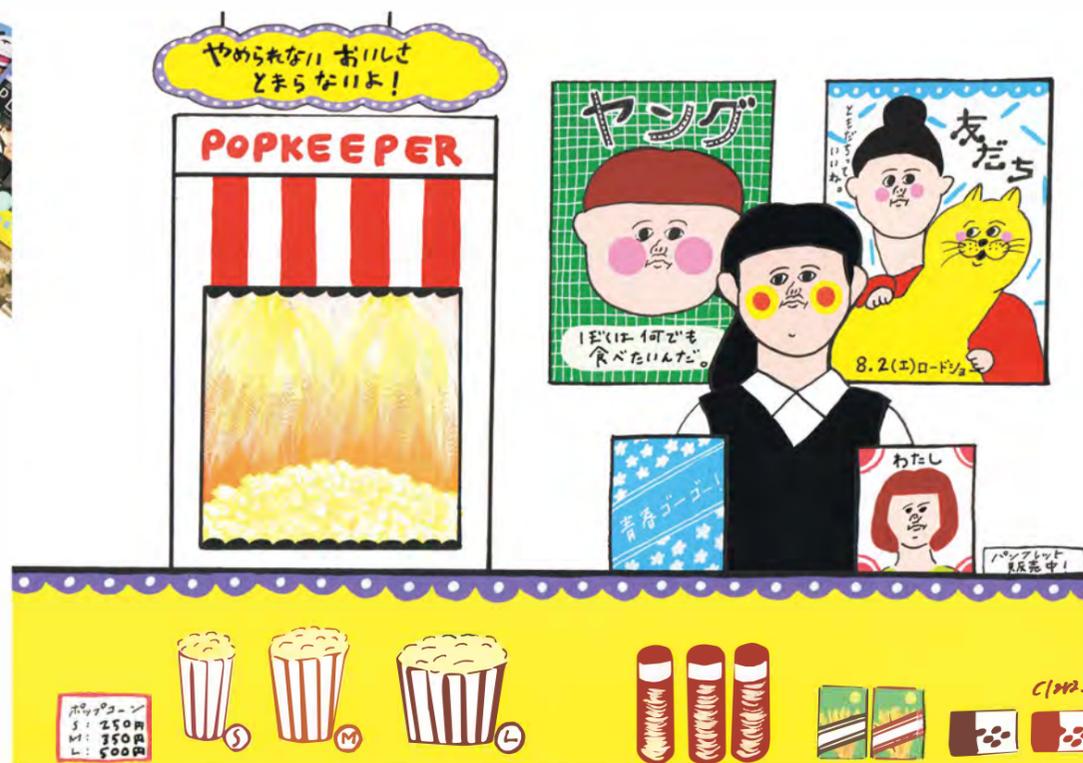
上映作品に限られる中、「埋もれていく作品」を拾い上げ、

「見せたい作品」をえりすぐって上映する人たちがいる。

映画には、人と人をつなぐ力、まちを元気にする力がある。

そう信じて、映画文化の灯、をともし続ける活動を追った。

## 共有の輪広がる、まちなか上映活動



# 映画文化の灯、 絶やささない

文/松田 則章  
写真/山内 一峰  
イラスト/Clara

鳥取市出身のイラストレーター・クララ (Clara) さんと、埼玉県から同市へ移住した会社員・クロダ (黒田ミキ) さんの心を揺さぶったのは、『ふたりの桃源郷』(2016年、山口放送制作)。山で暮らす老夫婦と支える家族の25年を追ったドキュメンタリー。

2人がボランティアスタッフとして加わっていた映画団体が上映した作品で、人気が高く、見たくても入場できない人もいたほど。再上映が期待されたものの、予定はなかった。「ならば、この映画を私たちの手で上映しよう」。二人三脚の映画上映会はこうして、2017年7月にスタートした。

2人の出会いは、その1年半前、東京で開催された鳥取への移住希望者説明会にさかのぼる。クララさんは、鳥取市の要請で魅力を語る講師として出向き、クロダさんは鳥取砂丘に魅せられていた参加者の一人だった。翌年春にクロダさんが移住後、2人は市内の街角や雑貨店などで何度も「ひよっこり」と遭遇した。話をするようになって3カ月後には、一緒に外国旅行に出かけるほど仲良くなったという。

『ふたりの桃源郷』は1日に4回上映し、急遽、パイプ椅子を増やすほどの大盛況だった。偶然の出会いが気に入りに命名した「ひよっこりシネマ」は以後順調に推移し、ここ数年は公共のホールを借りて年4、5回のペースで開催。7年間の活動で上映会は20回、総入場者数は4000人に達した。

回を重ねるごとに運営はスムーズになる一方、苦勞するのが作品選びだ。最近では、インターネットや衛星放送チャンネルなどで放送される映画を参考にして、2人でしっかり話し合う。「見てほしい」をモットーに1年間のバランスなども考慮し、上映作品を絞り込んでいる。

活動の支えは、「上映してくれてありがとう」「おかげで久しぶりに友達に会えた」などという来場者の声。「これからもみんなのでひとつの作品を見て泣いたり笑ったり、感想を話しあったりするような映画体験を届けたい」。2人はこう意気込んだ。

シアターに入る前の空間には、盛りだくさんの本。  
映画関連以外にも個性的な本があふれ、閲覧できる



広いソファでゆったりと  
くつろぎながら映画が見られる客席



## 「戸惑い」を感じる作品を

東郷湖（湯梨浜町）を望む高台に建つ廃校となった小学校舎。その最上階の3階にあるかつての教室が「jig theater」の劇場だ。緩い階段状に設置された背もたれ付きのソファは、寝そべられるほどゆったり。くつろぎ感が演出された空間は、自宅で映画を見ているかのような錯覚に陥る。

運営しているのは、柴田修兵さんと三宅優子さん夫妻。長男、相くんの出産を機に2021年、「暮らしを見つめ直そう」と大阪から地方への移住を決意。山あり海あり、かつ文化的な雰囲気のある同町にイターンした。

jig theater

(湯梨浜町)

## 舞台は廃小学校の教室

「何かしら人が集まるスペースを造りたいと思っていたが、映画館が思ったよりも手軽にできることが分かった。自分たちも見たいと思う作品を上映するミニシアターをやることにした」

柴田さんは、子どものころからの映画好きで、映画出演の経験もある。高校生のときに見た黒沢清監督のサイコ・サスペンス映画「CURE」の映像に、恐怖とともにこれは何だと「戸惑い」を覚え、強く印象に残った。この体験から「上映するのは、見る人が戸惑いを感じ、踏みとどまって考える作品にしたい。世の中には、いろいろな思考、考え方、形があることを知ってほしいから」と方向を定めた。

館名の「jig」は、加工や製造などの際に作業をサポートする補助工具のこと。映画館は、観客と映画の出会いを導く補助的な存在という意味を込めた。



これまでの上映作品のチラシ（写真上）  
「作品選びはとても苦労します」と柴田さん、三宅さん夫妻

1カ月単位で企画（作品）を入れ替え、週末を中心に月に7〜10日開館。1人の監督の作品をまとめて特集上映することもある。評判が広がり、県内だけでなく島根、岡山県など県外からも映画好きが集まるといい、多い月には400人が訪れるほど定着してきた。

「上映する作品は観客の期待に応えつつ、うまい具合に裏切っていないから」。その期待されている苦勞するが、運営の醍醐味だとも考えている。

📍 jig theater  
📍 東伯郡湯梨浜町松崎619  
✉ mail@jigtheater.com



Web

※9月はアメリカのドキュメンタリー映画の巨匠、フレデリック・ワイズマン監督の最新作「至福のレストラン 三つ星トロワグロ」をはじめ、同監督の作品を特集上映。



## 特撮、アニメ…マニアが集う

「映画は総合芸術。世の中の面白いものはすべて映画に含まれる」が持論。1回だけのつもりでプロデュースした2011年の事変では、同市出身の岡本喜八監督の作品をはじめ20本以上の映画を上映し、歌手の泉谷しげるさんらがゲストとして駆け付けた。3日間にわたって「詰め込みすぎた」というくらい盛りだくさんのイベントを展開。翌年以降も継続を要請され、

「事変の目的は何か」。目指す方向性を探りて模索し続けた結果、現在は映画による人的ネットワーク、関係人口の創出だと気付いた。「米子にあれば全国の同好の士に会え、友達になれる」。赤井さんはその魅力を熱く語った。

こう語るのは、事変の実行委員長で、米子市出身のアニメプロデューサー赤井孝美さん。東京でアニメやゲームの製作、プロデュースに打ち込んでいた2008年、「米子の活性化のため何か考えてもらえないか」と、地元の経済人から要請された。そのころ、アニメ制作者として参加したロカルノ国際映画祭で「これだ」と直感したという。

昨年で12回の歴史を重ねている。短編映画コンペ「3分映画宴」は、第1回から続く看板企画。応募する製作者は全国各地から米子の会場にやってきて、観客とともに公開審査に臨む。昨年の名作映画の上映とトークショーでは1973年公開の『日本沈没』を上映、出演した俳優の藤岡弘、さんが登壇した。過去には、特撮映画やアニメの監督として知られる樋口真嗣さん、押井守さん、福田雄一さんなどが、華やかに舞台を彩っている。

## 映画を核に「まちなか大文化祭」

多い年には100本もの応募がある短編映画コンペ、名作映画の上映と監督・出演俳優らのトークショー、怪獣やアニメ、模型・フィギュアなどのマニアックな展示。まちをステージにした何でもありの大文化祭、それが「米子映画事変」(以後、事変)だ。

「イメージしたのはスイスのロカルノ国際映画祭。巨大プロジェクトが設置された広場に椅子が並べられ、人々はそこで映画を見る。山間の小さなまちは映画一色になる。『米子映画祭』ではそのまますぎるので、非常の出来事を意味する事変とした」



米子映画事変をPRするキャラクター「ネギマン」  
©YonagoGAINAX  
©YonagoEIGAJIHEN



看板企画の「3分映画宴」。全国から応募があり、審査当日には多くの人が会場に駆け付ける★

★写真提供=米子ガイナックス株式会社

〒米子映画事変実行委員会事務局  
(米子ガイナックス株式会社内)  
〒米子市東倉吉町54-3 (2F)  
☎0859-21-5281



Web

【第13次 米子映画事変】

回 10月5日(土) 6日(日)

場 米子市公会堂

内容/山陰と縁が深い題材のアニメ映画『わんぱく王子の大蛇退治』の上映&トークショーや岡本喜八監督作品『あゝ爆弾』を上映。恒例の「3分映画宴」も開催。

「映画を核にさまざまな関係人口を増やしていきたい」と赤井さん

# U VIVA トットリ LIFE

輝く！JUターン者たち  
文/日高むつみ 写真/萱野雄一



山陰各地のイベントで注目の屋台がある。  
真っ赤なエプロン姿で手際よく料理を仕上げ、  
笑顔で振る舞うのはツァイドラー・オットーさん。  
倉吉市で2年、米子市で6年を過ごすハンガリー青年は、  
倉吉弁を流暢に操り、日欧の文化の懸け橋となっている。



## 17歳で単身来日、倉吉へ

オットーさんが初めて日本の文化に触れたのは5歳の時。家族と訪れた旅先のことだった。「テールブルいっぱい」に世界各地の料理が並ぶ中、私だけ寿司まっしぐら。生魚を食べる文化はハンガリーにはないのに、ためらいなく食べていた記憶があります」と笑う。以来、日本への熱は高まる一方。独学で日本語を学び、日本の推理小説に没頭し、16歳で標準語を会得していたというから驚きだ。

日本への留学は当初、頑固一徹の職人気質である父に反対された。しかし、アジアの文化に親しみがある母のおかげで最小限の学費を出してもらえることに。



「希望の留学先は地方の大学。生まれ育ったブダペストのような大都市には興味がなかった。人間が自分らしく生きられる場所を、と探して見つけたのが鳥取短期大学であり、倉吉だったんです」。

## きっかけはイベント出店

屋台との接点は、同市に住んで半年が経った頃。地域おこし協力隊として活動していた友人に、国際交流



その時々イベントに合わせ、さまざまな料理を提供する。この日はダックステーキ、グリルソーセージ、揚げピザ「ランゴシュ」などがズラリ



【I・J・Uターンの相談窓口】  
公益財団法人  
ふるさと鳥取県定住機構  
☎ 0120-841-558  
とっとり移住定住ポータルサイト「鳥取来楽暮」▶

# 日本とヨーロッパの懸け橋に

## 屋台ビジネスで食文化発信



「ヨーロッパの料理は、まだまだ日本であまり知られていません。いろいろな種類を提供してそのおいしさを広めたい」とオットーさん

### ハンガリー・ヨーロッパ料理屋台経営(米子市) ツァイドラー・オットーさん

ハンガリー・ブダペスト出身  
◎家族構成/ひとり暮らし ◎移住前の住まい/ハンガリー  
◎移住時期/2016年  
◎現在の仕事/ハンガリー・ヨーロッパ料理屋台経営

Deli-Art合同会社  
☎ 070-1317-8658

「希望の留学先は地方の大学。生まれ育ったブダペストのような大都市には興味がなかった。人間が自分らしく生きられる場所を、と探して見つけたのが鳥取短期大学であり、倉吉だったんです」。

「手心えを感じました。今考えたらほんとに少額だけど、アルバイトのイベントへの出店を持ちかけられた。初出店は母や祖母に教わった母国の焼き菓子だ。」

「手心えを感じました。今考えたらほんとに少額だけど、アルバイトのイベントへの出店を持ちかけられた。初出店は母や祖母に教わった母国の焼き菓子だ。」

「ハンガリーを含め、日本では知られていないヨーロッパの料理を地域の人に味わってほしい。おいしい！と感じることから興味が生まれ、本当の国際交流につながると思うのです」

巻頭特集の記事。倉吉市のクラフトビールは麒麟ビールの創始者の思いを受け継ぎ、新たな挑戦を続ける姿勢が素晴らしいです。他もそれぞれ地元の特色や魅力を生かしたビール造りの取り組みがいいですね。

(大阪府大阪市 山下 毅)

福井さんは倉吉市出身の磯野長蔵さんの思いを継承してビール造りを、私は磯野さんが創設した三松奨学金で大学進学を。知らない所で人と人のつながりを実感しました。

(広島県東広島市 秋里 千佳子)

「きらり匠人」で寝具製作職人の米原さんがこの道65年、今なお作り続けていることに感服。保湿性に優れているという綿布団は、湿気が多い日本の気候にあったものだったのですね。

(鳥根県安来市 米原 和美)

「この人」の植村さんの記事を読み、「わが子のため」とスタートした活動が今やたくさんの方の役に立っている。「だれかのために」という思いが大きなパワーになると感じました。

(鳥取県米子市 富賀見 葵)

困難な状況のなか、「物言う障がい者」を育てたいとの一心で歩み続ける植村ゆかりさんの姿に、涙ながらに感動しました。

(岡山県津山市 辻 信行)

カメラアイの鹿野のハスは、見事です。鹿野に行っても見たことがなく、今年は開花時期に合わせ行ってみます。

(鳥取県鳥取市 家納 ヌキコ)

「おもしろ発見手帖」の野外彫刻。県内各地に点在することや、市民発のプロジェクトが盛んだったことを初めて知り、新たな気持ちで巡ってみたいくなりました。

(広島県福山市 澤田 和宏)

表紙の絵がかわいくてほっこり。また「開運おかげ詣で」では、<sup>こくちやうり</sup>國廳裏神社を初めて知り、興味津々。次の鳥取旅ではぜひおまいりしたいです。

(東京都北区 高橋 祐美)

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキ、電子メールまたはWebの専用応募フォームでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。



● 応募用クイズ ●

Q 『万葉集』を編さんした一人とされる奈良時代の歌人はだれ?空いている□に当てはまる漢字を記入してください。

大 □ □ 持

142号のクイズの答えは「**大**が」

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220  
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)  
「とっとりNOW読者プレゼント」係  
メールアドレス: now@kouhouren.jp

応募バ切

2024.  
**9/30**  
消印有効

A



旧美敷水源地水道施設  
ペーパークラフト(2種セット)【3名】

「旧美敷水源地水道施設」の大正時代の図面を元に精巧に作られたペーパークラフト。「制水井上屋」と「接合井上屋」の2種類で、1/50スケール(約15cm角)。現地で販売中。

問 美敷水源地保存会  
☎ 090-1682-1842 (澤田さん携帯)

板祐生孔版画フリーチーフ

(51cm角)【5名】

大正～昭和時代に自身で編み出した「切り抜き孔版画」の技法で、多くの孔版画を生み出した板祐生。デザイン性の高いその孔版画をプリントした大判のフリーチーフ。  
※種類は選べません

問 祐生出会いの館  
☎ 0859-66-4755

B



梨ワイン「pears'」(360ml)【3名】

鳥取県産の<sup>じっせいきなし</sup>二十世紀梨、<sup>しんかんせん</sup>新甘泉を使い、日本酒の製造技術で造った梨ワイン。果汁200～250%濃縮で、果汁のみで発酵させ、爽やかさと自然な甘み特徴。酸化防止剤無添加。  
※種類は選べません

問 梅津酒造株式会社  
☎ 0858-37-2008

C



Editor's note □ ■ 編集後記 □ ■

「愛」とは何か。年齢を重ねるほど、言葉の重みを実感する。考え方は十人十色、正解はひとつじゃない。他人と寄り添うともなればなおさらだ。□足立紳さん(15頁)の作品は、映画であれドラマであれ、小説も同様に、どこにでもありそうな日常もがきながら生きる人々の姿を描いたものが多い。派手さはないが、心を揺さぶられるのは根底に「愛」を感じるからか。途中、

イラッとしたり、逆に吹き出したり、涙腺がゆるんだり。どんどん引き込まれ、最後は温かい余韻に包まれる。□人は多くの顔を持つ。優しさの裏にずるさ、笑顔の裏に悲しさなど複雑だ。それらを赤裸々にさらけ出すからこそ、皆の共感を呼ぶのだろう。□それにしてもだ。特筆すべきは、妻の晃子さん。叱責しながらも彼を信じて見捨てなかったその愛は、もはや宇宙的規模。あの映画のタイトルは、むしろ愛妻ならぬ愛夫物語。だ。その偉大さに感服。【Hi】

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会  
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社セイ堂デザイン  
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

『とっとりNOW』はWebでも見られます。  
また、Web限定のコラム「すべての道は鳥取に通ず」「菌活で広がるきのこの世界」「満ぶくよくばりグルメ皿」も連載中。

